

ステラーラ®を使用される患者さんへ ステラーラ®による 乾癬治療について



監 修

東京慈恵会医科大学
名誉教授 中川秀己 先生

医療機関名

ステラール®による乾癬治療をはじめるとあって

かんせん 乾癬とは

乾癬は、慢性の炎症性の皮膚疾患です。

国内に約40～50万人いる^{1,2)}と考えられ、男性に多くみられます³⁾。その主な症状は、皮膚の赤みや盛り上がり、フケのような白いかさぶた、かゆみ、などです。乾癬が起こる原因は明らかにされていませんが、近年、外敵から体を守る免疫作用の過剰な働きが、乾癬の原因の一つであることがわかってきました。

乾癬は残念ながら完全に治る病気ではありませんが、治療で症状を抑えることができます。乾癬の治療には、塗り薬や紫外線療法、飲み薬などが用いられますが、2010年からは生物学的製剤と呼ばれる注射薬が、新たに乾癬治療に使えるようになりました。これらの中からあなたにピッタリの治療方法に出会うこと、これがとても大切です。

治療について正しく理解し、病気と上手につきあっていきましょう。乾癬という病気からも、治療の煩わしさからも、いつの日か解放されることを願い、そのお手伝いが少しでもできればと思っています。

1) Kubota, K., et al.: BMJ Open, 5: e006450, 2015

2) 照井正 他: 臨床医薬, 30: 279, 2014

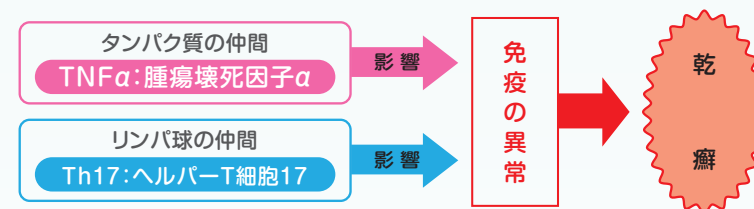
3) Kamiya K, et al.: J Dermatol, 48: 864, 2021



生物学的製剤とは

乾癬の原因はいまだに多くのことがわかっていません。しかし最近では、免疫に関連する物質の過剰な働きが、乾癬の発症と関係していることがわかってきました。その物質の一つが“TNFα”です。ディー・エヌ・エフ・アルファこれは炎症を起こす物質であり、TNFαが過剰になると、皮膚では乾癬の症状として現れます。

さらに、乾癬が起こっている皮膚で活動する物質の存在もわかってきました。“インターロイキン(IL)”という物質の一種です。特にIL-23やIL-17は、乾癬に深く関わるILと考えられています。



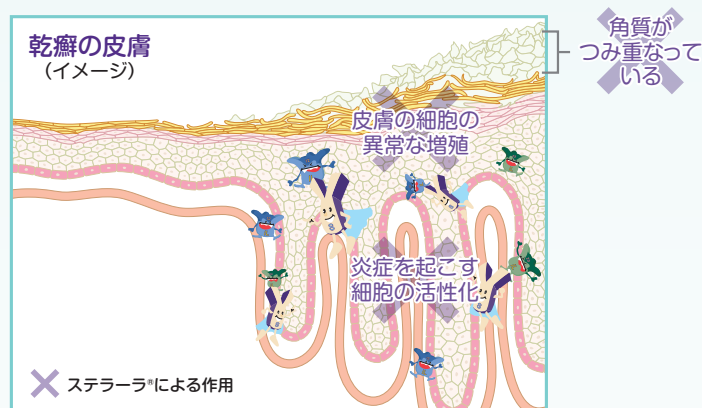
「生物学的製剤」とは、化学的に合成した医薬品ではなく、生物が合成する物質(タンパク質)を応用して作られた治療薬で、乾癬治療では、乾癬の病態に関わる免疫物質に直接働きかける薬を「生物学的製剤」と呼んでいます。



生物学的製剤は比較的新しく開発された薬であり、使用できる方が限られています。また副作用や治療費など、いくつかの注意も必要です。

ステララ®とは

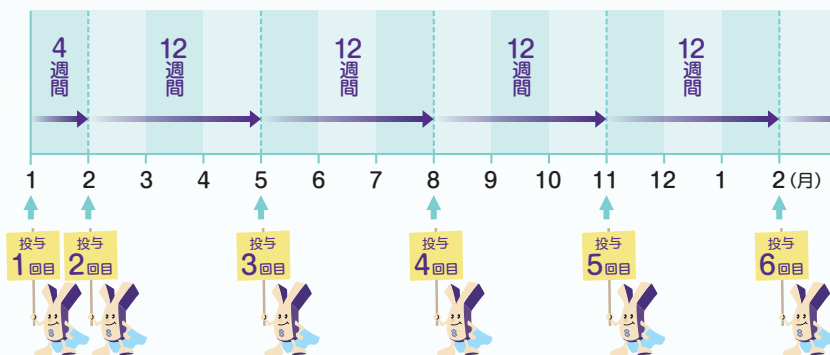
ステララ®は、乾癬に深く関わっているIL-23およびIL-12の働きを弱めて、乾癬の症状を抑える生物学的製剤です。



投与スケジュール

ステララ®は皮膚の下(皮下脂肪の部位)に投与する注射薬です。1回目に投与した後、2回目は4週後(約1ヵ月後)、3回目からは12週(約3ヵ月)に1回の間隔で投与します。きちんと投与間隔を守りましょう。

◆1月からステララ®による乾癬治療を始める患者Aさんの場合



投与できる方・できない方

ステララ®は生物学的製剤であるため、投与できる方とできない方がいらっしゃいます。

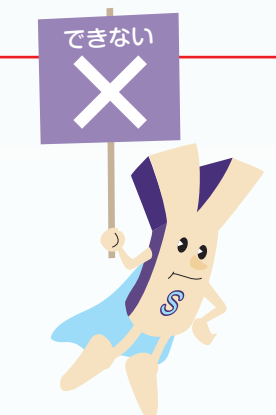
投与できる方

- 尋常性乾癬および関節症性乾癬(手指の関節が腫れて痛みがある方)に対して、過去の治療で効果が不十分だった方。
- とくに尋常性乾癬では、紫外線の治療を含む過去の全身療法(生物学的製剤以外)で効果が不十分だった方。
- 皮膚の病変(赤みや盛り上がっている部分)が、全身の10%以上にひろがっている方。
(手のひらぐらいの大きさの病変が約10個分以上)



投与できない方

- 肺炎や肝炎など重い感染症をわずらっている方。
- 治療が必要な結核にかかっている方。
- ステララ®に含まれる成分で、過去にアレルギー反応を起こしたことがある方。



気をつけるポイント① ー投与後ー

ステララ®は体の中で免疫の一部の働きを弱める作用があります。そのため治療中は、ステララ®を投与していない時よりも、病原菌やウイルスなどと、たたかう力が弱くなる可能性があります。

- かぜやインフルエンザなどの感染症から体を守るために、外出先から戻ったら、うがい・手洗いを行いましょう。



- インフルエンザの予防のために、流行前にインフルエンザワクチンの接種が望ましいです。ワクチン接種については主治医に必ずご相談ください。

- BCG、麻疹、風疹、おたふくかぜ、みずぼうそう、などの生ワクチンの接種は避けましょう。(接種が必要な時は、主治医にご相談ください)

《その他の注意》

- ステララ®を注射した当日は、注射部位への刺激は避けてください。
- 妊娠を希望される方は、主治医にご相談ください。

気をつけるポイント② ー副作用ー

ステララ®の投与中に起こる可能性のある主な副作用です。ふだんから体調を管理して、変化に十分気をつけましょう。気になる症状があれば、すぐに医師に相談してください。



- かぜ症状：
ノドがいたい、咳がでる、
ゾクゾク(寒気)する、頭痛がする、
熱がでる、など。



- アレルギー症状：
発疹(じんましん など)、
かゆみ、など。



- 全身症状：
疲れやすい、体がだるい、など。



起こる可能性は非常に低いものの、とても注意が必要な副作用です。
あてはまる症状があれば、すぐに医師に連絡してください。

■アナフィラキシー

アナフィラキシーは、医薬品の投与後30分以内に起こることが多いです。かゆみ、じんましんなどのアレルギー症状と似た症状のほか、声のかすれ、くしゃみ、ノドのかゆみ、息苦しい、心臓の動きがいつもより速く感じる、意識がうすれてくる、などの症状があります。

■結核の再燃、肺炎などの重い感染症

過去に治療した結核がふたたび悪化したり(咳がつづく、熱がでる、など)、肺炎などの重い感染症を発症した場合は、主治医に連絡してください。

■ウイルス性肝炎

過去にB型肝炎にかかったことのある方で、ふたたび肝炎の症状が現れることがあります。投与前に検査をすることにより、過去の感染状況や現在の状況を把握し、治療に役立てていきます。

■間質性肺炎

発熱や咳、息苦しい、体がだるい、などの症状があります。

■悪性腫瘍(がん)

ステララ[®]が原因であるかは明らかではありませんが、投与した方において皮膚および皮膚以外での悪性腫瘍発症の報告があります。投与中に悪性腫瘍が発見された場合には、すぐに主治医に相談してください。

副作用は早く見つけて、早く対応することがとても大切です。
ふだんから定期的に検査を受けて、少しでも体調がおかしいと感じたら、必ず主治医に相談しましょう。

■発熱、咳、息苦しさに対する対処方法

重い感染症にかかっていないかどうかを判断する必要があります。このような症状が起こった時はすぐに医師にご相談ください。治療が必要な感染症の場合、ステララ[®]の投与を一時的に中止して、まずは感染症の治療を行います。

■アナフィラキシーの対処方法

アナフィラキシーは、医薬品の投与後30分以内に起こることが多いです。「息苦しさ」や「ショック症状*」などが出た時は、躊躇せず^{ちゅうちょ}に救急車を呼び、すぐに医療機関を受診しましょう。

*お薬などに対するアレルギー反応により、急激に血圧が低下したため、心臓や腎臓などの全身の重要な臓器や組織へ十分な血液を送れなくなった状態のこと。



厚生労働省「重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー)」平成20年3月(令和元年9月改定)

日常生活で気をつけたいこと

■皮膚をひっかいたり、傷つけたりすると、途端に乾癬は悪化してしまいます。こまめに爪を切る、ヒゲの深剃りをしない、など皮膚への刺激をなるべく減らしましょう。

■乾燥は皮膚の防御機能をもろくする原因となります。とくに冬期は加湿器などで、乾燥しないよう心がけましょう。

■肉などの動物性タンパク質の摂りすぎは乾癬の悪化につながることがあります。適度な食事量とタイミング、バランスのとれた食事を心がけましょう。

■ストレスは乾癬にとって最大の敵です。イライラすること、不安なことを、なるべく取り去りましょう。好きなものを身近に置いたり、音楽や趣味で上手に気分転換しましょう。また十分な睡眠をとるようにしましょう。

■あなたの体調のバロメーターを把握するために、症状や体調の変化、悪化した時の行動や状況などを記録しておくとういでしょう。

*ステラーラ®乾癬治療ダイアリーをご活用ください。



よくある質問①

Q ステラーラ®による治療はいつまで続けるのでしょうか？

A ステラーラ®は乾癬を完治させる薬ではないので、治療経過を見ていく必要があります。治療の継続については主治医にご相談ください。

Q 来院時はどのような服装で行けばよいですか？

A 問診したり、検査したり、皮膚の状態を診たりしますので、なるべく診察しやすい服装で受診しましょう。

Q 投与予定日に体調が悪くなりました。

A 体調不良の内容が、副作用であると考えられる場合には、ステラーラ®による乾癬治療を中止する必要があります。どのように体調が悪いのか、それはいつ頃からなのか、などを主治医にお伝えください。→6、7ページ参照

Q ステラーラ®を投与した当日の入浴は避けたほうがよいでしょうか？

A ステラーラ®を注射した当日の入浴は可能です。ただし、入浴の際は、ナイロンタオル等でゴシゴシ擦ったりするなど、皮膚への刺激は避けてください。→5ページ参照

よくある質問②

Q 持病で高血圧があります。
いままで通り、降圧薬を続けて飲んでもよいですか？

A 降圧薬の中には乾癬を悪化させる可能性のある薬剤があります。
主治医にどのような降圧薬を服用しているかお伝えいただいた
うえで、降圧薬の継続や変更などについて必ずご相談ください。

Q 海外旅行に行きたいのですが。

A もちろん構いません。ただ衛生管理にはくれぐれも注意しましょう。
生水は飲まない、マラリアなど感染が流行している地域は避ける
など、感染症の予防が必要です。→5ページ参照

Q 関節に痛みがあるのですが、乾癬と関係がありますか？
また、何科を受診すればいいのでしょうか？

A 乾癬の種類には関節に症状が現れる関節症性乾癬があり、リウマチ
と似たような症状を起こすことがあります。関節の痛みには様々な
原因が考えられますので、まずは、主治医にご相談ください。

Q ステララー®を投与していますが、関節が腫れて痛みます。
副作用のせいでしょうか？

A 副作用の可能性もありますし、関節症性乾癬の可能性もあります。
また、糖尿病を合併している場合、ステララー®の効果が弱くなって
しまう患者さんもしらっしゃいますので、主治医にご相談ください。

よくある質問③

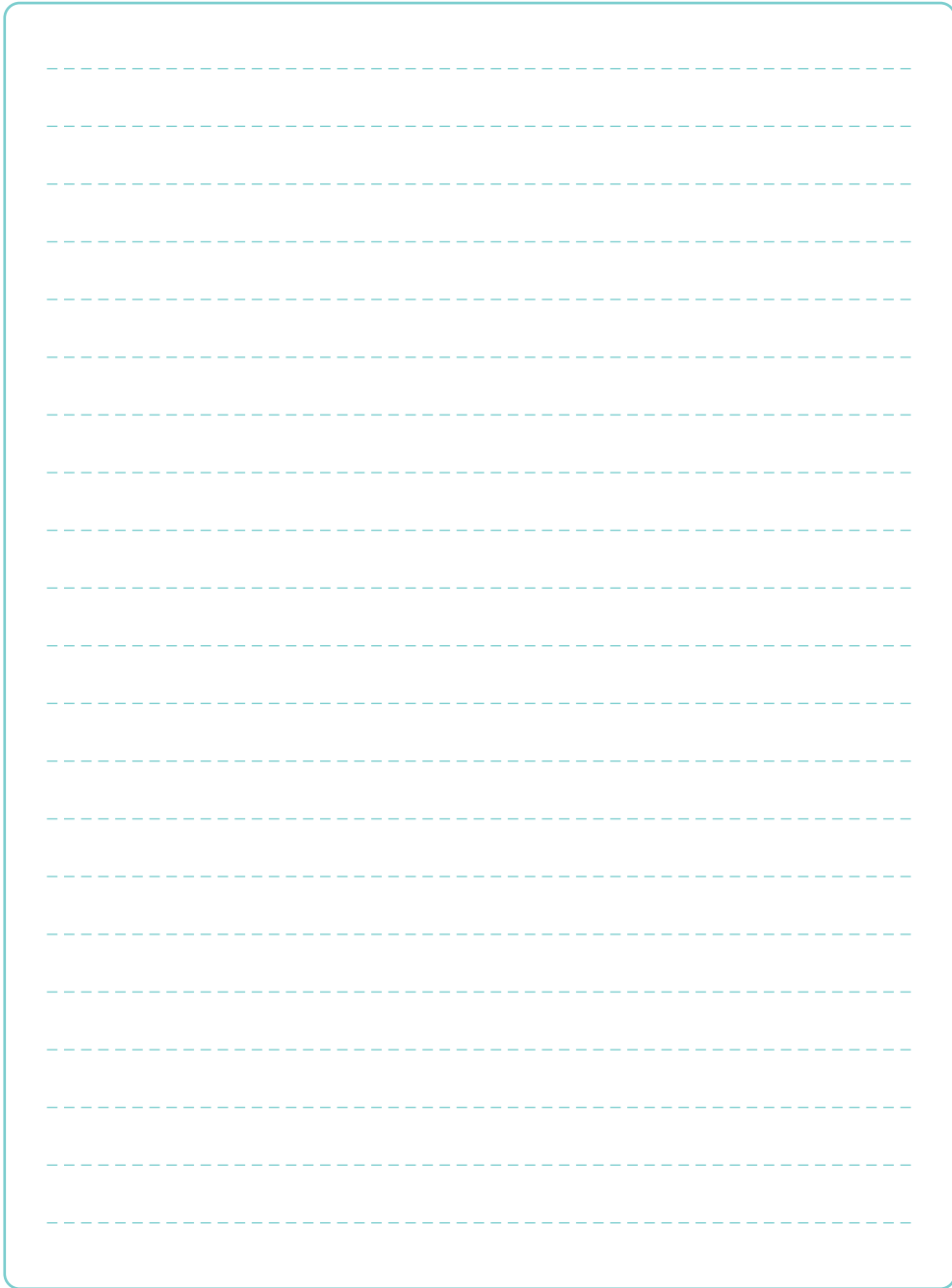
Q ステララー®の次の投与前に症状が再燃してきました。
何か対処方法はありますか？

A 効果の持続には個人差があります。前回の投与からどれくらいで、
どの程度症状が悪化しているのかを主治医にお伝えください。
そのうえで、ステララー®の投与量の増量や他の治療の併用・変更
など、対処方法を主治医とご相談ください。

Q ステララー®による治療の費用はどれくらい掛かるのですか？

A ステララー®による治療の医療機関での支払額が一定金額を超えた
場合、高額療養費制度が適用され、患者さんの年齢や収入によって
負担額が変わってきます。詳細は、加入する医療保険の窓口へお問
い合わせください。

MEMO



MEMO

